



RYUKOKU ALUMNI  
FUKUOKA BRANCH  
龍谷大学校友会 福岡県福岡支部

龍谷大学校友会福岡県福岡支部会報

# 光輝 ~Luster~

第 4 号

2020年11月

発行：龍谷大学校友会福岡県福岡支部

編集：福岡支部事務局

## コロナ禍のなかで

2020年、新型コロナウイルスが猛威をふるい、日本だけでなく、世界中が混乱しています。当会も影響を受け、総会は文書審議、交流会が中止となり、集まる機会がなくなりました。先日、役員会を開催し、何かできないかと話し合いがもたれ、校友会員の方々に配布している『光輝』を臨時発刊することになりました。コロナ禍で今、思うこと、本来ならば交流会で語られる大学時代の思い出など、寄稿していただきました。この活動が校友の輪を広げる契機となることを念じています。

### 「コロナ禍を聞法のチャンスに」

高石 彰也（副支部長、1963年卒）

8月20日、校友会世話人会がもたれました。その席で、コロナについて、仏教徒の立場からの意見をとの求めで感想を述べさせていただくことになりました。

最近の傾向としては、健康を生き甲斐とする「長寿社会」を目指すことが、世界の常識になってきています。そこへ突然、コロナの感染症の出現で、世界中が慌てました。新型コロナウイルスのため、ワクチン開発も手探り中で、高い致死率は、多くの人を不安と恐怖に落とし入れました。日本では、緊急事態宣言が出され、三密を避け、自粛によるステイホームで、心の健康さえ蝕まれていきつつあるのではないのでしょうか。

日本古来ではこんな時、災害や疫病などにつけ、人々は寺院に集まり、僧侶にたより、苦しみに耐え、不安を乗り越えてきたことは歴史が証明しています。今こそ寺院を開放し、人々の苦悩を受けとめ、希望ある生き方をお示しする絶好の機会ではないのでしょうか。もとより、感染への細心の配慮は必要ですが。

仏教経典には、「見老病死悟世非常」とあります。人の世は、生老病死の非常状態なのだを教えています。コロナの死だけに限らず、災害死や事故死、病死など、時を待たず、人を選ばず、老若の別なく、死はやってきます。生と死は、命の合わせ鏡。密接な手助けの必要な高齢者や不自由者もいます。感染者をヘイトで傷つける社会など決して許せません。

誰もが、かけがえない命を生きていることに目覚め、ぬくもりと安らぎに満ちた、家庭や社会を取り戻すために、仏法の智慧と慈悲に耳を傾ける機縁にしたいものです。 2020年9月 63卒

2020年10月28日～11月2日まで、校友会員である徳澤光則さんの個展「陶 徳澤光則展」が岩田屋三越美術画廊で開催されました。地元福岡では、2017年以来、3回目となります。コロナ禍で様々な制限がかかる開催となりました。

唐津焼が持つ独特の風合いと、伝統の中にも新しさを取り入れている作品でした。暗いニュースが多い中、明るい報告ができることをうれしく思います。



徳澤 光則 さん



個展の様子

# 校友の輪

## 龍Ron小町福岡支部

### “コロナ禍の先に”

野上 玲子 (1972年卒)

会員の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか？ 今年にはコロナ禍により、いろいろな活動が中止や延期となっていますが、『光輝』第3号の編集後記にもありますように、再び「つながる」ことができる日を心待ちにしているところです。その時は又、笑顔でお会いいたしましょう。

### “学生時代の思い出”

鷹取 祐子 (1979年卒)

昭和50年春、龍谷大学での学生生活は、襖一枚で区切られた伏見の下宿生活から始まりました。所属した宗教教育部の人形劇の練習は、本願寺の唐門前で発声練習をして人形劇の歩き(?)で周辺を回るといもので、最初はとても恥ずかしかったこと、先輩の指導で人形を持って京都駅の人混みの中で大声でセリフを言ったことなども思い出されます。

肝心の大学の授業のことはほとんど記憶にないのですが、下宿で友達とワイワイ言いながらお酒を飲んで恋愛話をしたり、サークルで合宿をしたり…。実家が恋しくなると、十円玉を握りしめて近くの公衆電話まで走ったり。便利なものはなかったけれど、キラキラ輝いていた4年間だったと思います。

龍谷大学校友会、特に女子会「龍Ron小町」の懇親会では学部や世代を超えて話がはずみ、楽しく懐かしい時間を共有することが出来ました。

新型コロナの影響で何もかも不安な時代ですが、こんな時代だからこそ、人とつながって行くことが大切だと痛感しております。

### 支部連絡先

事務局長：原田智昭 福岡県糸島市井田432 教法寺内  
FAX番号：092-323-0919  
支部連絡先メールアドレス：ryukoku.fukuoka@gmail.com  
校友会福岡支部 Facebook、ツイッターあります

## 福岡深草会

### 近況報告～この頃思うこと～

浦田 繁 (1984年卒)

昭和59年経営学部卒業の浦田です。早いもので京都を離れてから36年が経ちました。今年定年を迎えて会社員の生活もひとつの区切りが過ぎました。また孫も2人出来てジジイになりました。世間で言う第二の人生が始まりましたが、その前に、龍谷大学の先輩後輩に巡り逢えて良かったと思っています。仕事関係がほとんどの世界が大きく広がりました。還暦になってから、先輩後輩と飲む楽しみを覚えしました。もう少し社員が続きますが、皆さんよろしくお願ひします。

※「福岡深草会」会員募集中

### 「若者は」とグチる前に

金見 倫吾 (2010年卒)

龍谷大学・大学院での9年間の学びを終えて柳川の自坊に戻り、いつの間にやら10年の月日が経ちました。現在、寺の仕事と並んで、2012年より筑紫女学園大学にて、2019年より加えて九州龍谷短期大学にて非常勤講師として仏教・仏教福祉・人権関係の講義を担当させていただいています。母校での学びを基礎にしつつ、同僚の先生方や学生さん、門徒さんにお育てを受ける日々です。10年前には思いもしなかった生活を送りながら、ご縁の不思議を思います。

かつての自分と比べて今の学生さんたちをみていて思うのは、とても真面目で繊細だということ。「近頃の若者」へのグチは古代からあったといわれていますが、僕はこれからの社会の担い手である彼女・彼らに希望を感じます。若者をとやかくいう前に、「自律」を忘れないでいたいと思います。

科研費研究課題で、『龍華孤児院月報』を探しています。寺院や旧家の蔵に眠っているかもしれません。お心当たりがございましたら、ご一報いただけますと幸いです。

r-kanemi@chikushi-u.ac.jp

## 龍谷大学校友会福岡支部の交流会について

今年度は新型コロナウイルス感染状況を鑑み、開催を中止することとなりました。参加を予定していた皆様には大変申し訳ございませんが、何卒ご了承ください。来年度は状況を見ながら、会員の皆様が集う場を設けたいと考えておりますので、その際はまた改めてご案内申し上げます。(龍谷大学校友会福岡県福岡支部事務局)